

昭和二十二年六月十二日 (第三種郵便物認可)
令和二年八月十三日発行 (毎月一回十三日発行)
定価 五〇〇円

第947号

第63回龍跳書道展「誌上展」
秋季昇段級試験課題発表

第七十六卷

9
月号

高知
龍跳書道会

梅雨も明け、夏本番です。

この度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、龍跳書展の県民ギャラリー開催を中止し、今回は、龍跳誌上展として開催する運びとなりました。にもかかわらず、多くの会友の方に出品していただき、心より感謝申し上げます。お互いの作品を鑑賞し研鑽を積み、これをステップに更に精進されまじようをお願い致します。

会員の和と団結で協力し合い「一歩一歩」歩みを続け向上、発展を目指しましょう。

龍跳書道会会長 廣 末 幽 念

第63回 龍崎先生道會展

誌上展

出間桂堂

古墨輕磨几香硯池新浴照人光

大黒仙雲

古墨輕磨几香硯池新浴照人光

一笑千山青

大黒仙雲

一笑千山青

森本瓊象

離燭有窮輝別之無終
歧之未及申離目已先舉

瓊象書

廣末幽念

雲霞白晝孤鶴
風雨深山臥龍

幽念書

雲霞白晝孤鶴
風雨深山臥龍

福原曉雲

從未有修短豈敢問蒼天見盡人間婦...
無不美且賢...
息此...
福原曉雲

塚地桂峰

從未有修短豈敢問蒼天見盡人間婦...

天地無私

天地無私

大原桂園

幽竹如人靜
閑花為我香

幽竹如人靜閑花為我香

野島桂山

零殘十三字方勁截鐵釘
猶見光彩燦落之如晨星

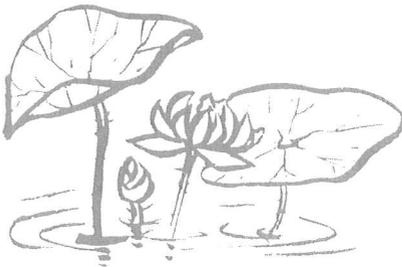
桂山

零殘十三字方勁截鐵釘猶見光彩燦落之如晨星

梅川桂龍

雙
飛
來
白
鶴
時
有
谷
潤
香
霧
濕
風
吹

風吹霧濕香潤谷
時有白鶴飛來雙



佐々木 港花

華

華

江西 澄翠

爽 譎 嗜 淡

無欲恬淡

無欲恬淡

大崎 花梢

閑古 錐

閑古錐

閑古錐

前田 秀華

測不測 妙

測不測

妙遠不測

芝田春琴

山秋菊
葉香

山秋菊葉香

下元玉泉

樂天
知命

樂天知命

堅田清園

一陽來福

清園書

一陽來福

高橋朱鳥

激風搖庭樹

朱鳥書

激風搖庭樹

田中惠風

我舞影凌亂

惠風書

我舞影凌亂

松浦明子

白雲滿地
無人掃

明子書

白雲滿地無人掃

天野喜泉

碧山過雨晴遊好綠

梅香風晚自涼

天野喜泉

碧山過雨晴遊好綠樹無風晚自涼

岩河里華

白鷺下秋水孤飛如墜霜
心未且未去獨立沙洲傍

岩河里華

白鷺下秋水孤飛如墜霜心閑且未去獨立沙洲傍

岩谷紅花

夏雲多奇峰

紅花公體

夏雲奇峰多し

伊吹悠道

青山如故人
江水似美酒
今日重逢把酒對良友

悠道公體

青山如故人
江水似美酒
今日重逢把酒對良友

石川美水

禮為教本敬者身基
望

然自失斂容折志

美水

禮為教本敬者身基
望然自失斂容折志

今井真理

雲歸時帶雨數
木落又添山一峯

真理

雲歸時帶雨數
木落又添山一峯

池 芳 春

邊地鶯花少年來未覺新美人
天上落龍塞始應春

芳春書

邊地鶯花少年來未覺新美人天上落龍塞始應春

市 原 處 艸

逢ひにゆく八十八夜の雨の坂

市原かく

逢ひにゆく八十八夜の雨の坂

氏原美泉

萬里中秋月正晴
四山雲霧忽然生

美泉
書

奧堂皓月

故日行百里者半九十
言晚節末路之難也

皓月
作

故日行百里者半九十言晚節末路之難也

奧崎躍翠

春風生渭水
春樹繞秦城
斜陽貧久立
為聽棹船聲

臨貧久立為聽棹船聲

躍翠

春風生渭水春樹繞秦城斜陽貧久立為聽棹船聲

大石千施

月影沈秋水
風聲落暮山

千施書

月影沈秋水風聲落暮山

大八木 洋女

鶴書於未至
那出白雲來
蕉路經年別

洋女

大崎 紫陽

窓升窗陰秋水薄
禱

苔新色曉嵐鮮

紫陽

窓竹閑陰秋水薄
苔新色曉嵐鮮

岡林邦心

春雪滿空來觸處似花開

不知園裏樹若箇是真梅

邦心之圖

春雪滿空來觸處似花開不知園裏樹若箇是真梅

岡崎綠水

千山夜靜香林月萬壑涼生竹閣風

望涼生竹閣風

千山夜靜香林月萬壑涼生竹閣風

岡本空仁

青山如故人
江水似美酒
今日重相逢
把酒對良友

岡田雄山

青山如故人
江水似美酒
今日重相逢
把酒對良友

人生感意氣

雄山

人生感意氣

茶烟一榻擁して眠る

志峰

茶烟一榻書を擁して眠る

笠原多嘉

青山緑水元依蕉
月清風共一家

多嘉

多嘉

多嘉

多嘉

青山緑水元依蕉明月清風共一家

片岡政徳

一路涼風

政徳書

一路涼風

鎌倉春葉

雲中白鶴

壽榮書

雲中白鶴

門田惠子

一時挫思明
踏扈之
師抗迴紇
香

一時挫思明踏扈之師抗迴紇無

河村容舟

牀前看月光
疑是地上霜
舉頭望山月
低頭思故鄉

頂望山月
低頭思故鄉

牀前看月光 疑是地上霜 舉頭望山月 低頭思故鄉

北村哲郎

客從予過黃泥之坂
霜色落也降木葉

隅田亘心

明珠在掌

亘心書

客從予過黃泥之坂霜露既降木葉

明珠在掌

高橋桜芳

旦極寒得示承夫人
復小歛不善得

桜芳
印

武内美仁

風林落葉秋聲動露
草鳴蛩夜氣涼

美仁
印

風林落葉秋聲動露草鳴蛩夜氣涼

田村和子

其祖高帝龍興者張

良善用蓐蒔在

和子信

武政幽雅

其祖高帝龍興有張良善用蓐蒔在

義之往都臨行題壁子敬密拭除之輒

田村和子

義之往都臨行題壁子敬密拭除之輒

中城知抄

今日南風来吹乱
庭前竹

中城知抄

中城康華

今日南風来り 吹き乱す庭前の竹

南去北来人自老夕
陽長送釣船歸

康華

南去北来人自老夕陽長送釣船歸

中平美峰

池畔好風驅暑去
松間明月逐人來

美峰

中平幸仙

北斗樽開顏有喜
南山頌叶壽無疆

幸仙

北斗樽開顏有喜
南山頌叶壽無疆

中内桂香

我歌月徘徊
舞影零乱

我歌月徘徊我舞影零乱

長町白水

春眠不觉晓
夜来风雨声
花落知多少

春眠晓を覚えず処々啼鳥を聞く夜来風雨の声花落つる事知る多少

白水

西内仁子

尔父竭誠常山作郡
余時受命之在平

西内仁子

西森令泉

柳絮乘風投硯水竹枝搖影落窓紗

令泉

柳絮乘風投硯水竹枝搖影落窓紗

西山極山

橋畔笛聲催日落城
近草色帶烟深

橋畔笛聲催日落城
近草色帶烟深

西村由香

楓葉欲殘看愈好
梅花未動意先香

楓葉欲殘看愈好
梅花未動意先香

野中恵花

木葉動秋聲

恵花

木葉動秋聲

濱田千舟

画意不畫形

千舟

画意不畫形

萩野羽花

分止右扶風或在安
定或處武都或居

羽花

分止右扶風或在安定或處武都或居

原桂春

夏月湖中爽氣多
南風疊々捲長波

原桂春

夏月湖中爽氣多南風疊々捲長波

広田秋桜

視其美以為勸
視其惡以為戒

秋桜

公

印

弘田賀峰

視其美以為勸
視其惡以為戒

蛙聲滿四鄰

賀峰公

印

印

蛙聲滿四鄰

深瀬緑堂

碧嶂丹崖春色
絳桃綠樹人家
松
野
桃
人
家
藤
原
朱
鳳

碧嶂丹崖春色
絳桃綠樹人家

藤原朱鳳

野寺訪僧歸帶月
芳林携客醉眠花

野寺訪僧歸帶月
芳林携客醉眠花

別役美佐

夜露無聲衣自濕
秋風有信葉先知

美佐書

松下紫香

風林落葉秋聲動
露草鳴蛩夜氣涼

紫香書

風林落葉秋聲動露草鳴蛩夜氣涼

夜露無聲衣自濕秋風有信葉先知

森光望春

落日銜西嶺驚沙卷北風
今年已半猶有未歸鴻

望春
森光

落日銜西嶺驚沙卷北風今年春已半猶有未歸鴻

森本寿山

海鶴一為別存亡三十秋
來數行淚獨上驛南樓

壽山

海鶴一為別存亡三十秋今來數行淚獨上驛南樓

水田紅子

蒼峰落日寒萬壑秋聲起
白日逐雲歸行人猶未已

紅子

山西春草

蒼峰落日寒萬壑秋聲起白日逐雲歸行人猶未已

快日明窓試墨寒
泉古鼎自煎茶

東山

快日明窓試墨寒泉古鼎自煎茶

矢野忠臣

風静
書窓
月満
梅

忠臣書

風静かに書窓月楼に満つ

山本恵歩

不知
細葉
誰裁
出
三
月
春風
似
剪刀

恵歩書

不知細葉誰裁出二月春風似剪刀

山脇佳月

春殘葉密花枝少
睡起茶多酒盞踈

佳月書

春殘葉密花枝少睡起茶多酒盞踈

橫山星舞

季明帖云秋氣深不審氣力復何如也

季明帖云秋氣深不審氣力復何如也

吉永光翠

中秋雲淨出滄海半
夜露寒當碧天

光翠
卿
書

中秋雲淨出滄海半夜露寒當碧天

吉田深美

一日清閑一日福

深美
書

一日清閑一日福

和田風和

脱人新正地仰之明
月影与楽之行

風和
印

脱人影在地仰見明月觀而樂之行



梅川桂龍書

庭 昏 未
夕 陰

庭は昏く未だ夕べならざる陰かげ

8月20日締切

梅川桂龍書

寥々たる人境の外

寥々りようりようたり人境じんきやうの外ほか

福原 曉雲 書

陽節 獻壽重

獻壽重陽節
寿を獻ず重陽の節

梅川桂龍臨

北魏·隋

張玄墓誌銘

所謂華蓋相

所謂華蓋相

空山多樾木
露滴秋房
屋上白云中人
归白云

大崎花梢

及室山集會一處
量南
仙法大子因
故共建法

伊吹悠道

心事一物中

須藤玲華

須藤玲華

秋野
大品未
氏長
施波還
貞立

親者手滿
椒花
香
繼
降三主

中平美峰

便自高明無假
置水故
以清潔遠祖
和吏

河村容舟

塵引白雲
歸坐榻
燕花氣入
窗紗

市原處卿

万福每臻
大椿保年
磐石爭榮
又世子

明石美桂

考之造
地感念
其方
之若
取諸懷
抱悟言
一室之

岡田雄山

內成
回寄
所託
放浪

岩村 祥

於乃
予
平
去
云
彼
之
向
矣
古
人
物
耶

大井 淳

条幅当選作品

梅川桂龍 選評

★天位

大崎花梢君 安定したりリズムで自在の運筆、潤渴を生かし明るい作。

伊吹悠道君 規模やや小なり、墨量の変化があれば更に良い。須藤玲華君 一心不乱に書して、心落ちつく作。

中平美峰君 字々の大小は気になるが、返って楽しめる作品となった。

河村容舟君 努力の作、淡々として素朴。

★地位

市原處艸君 大胆さはあるがやや力み過ぎの感あり。

明石美桂君 軽快な運筆、躍動感あり。

岡田雄山君 渴筆があれば、明るくなるのでは。

★人位

岩村 祥君 全体的、字々にも流れが欲しい。頑張ってください。

大井 淳君 やや白い部分が勝っているので、これからは大胆に書いてみてください。

作品は毎月20日必着
(必ず守ってください)

▷ 次回審査会 ◁

8月の審査は23日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

※審査終了後、県展作品勉強会を行います。(参加費500円)

言表

語現

中学一年課題
廣末幽念書

技科 術学

9月20日締切

大体育
会育

9月20日縮切

高足
し音

山秋

の

小学三年課題
大原桂園書

夕

日

9月20日締切

むし

小学一年・ようち・ほいく課題

市原處艸書

そ
ば

9月20日締切

学校名	の	か	い	じ	ど	
	は	ら	。	っ	し	森
	、	草	そ	と	ず	の
四	い	地	ん	し	か	中
年	い	へ	な	た	だ	は
	い	と	森	ま	。	、
級 段	気	歩	の	ま	木	お
氏 名	分	い	中	、	も	ど
	だ	て	の	動	れ	ろ
	だ	い	草	か	日	く
	。	く	地	な	は	ほ

小学三年課題
野中恵花 書

学校名	し	ん	日	よ	が	
	に	だ	も	く		お
	な	て		日	あ	客
三年	り	は	ゆ	も	ま	さ
	ま		う		り	ん
級段	し	ダ	す	そ	よ	の
氏名	た	イ	げ	の	か	ひ
	。	コ	旅	の	っ	よ
		ン	館	ま	た	う
		づ	の	た	た	ば
		く	の	よ	の	は
		こ	こ	く	で	ん

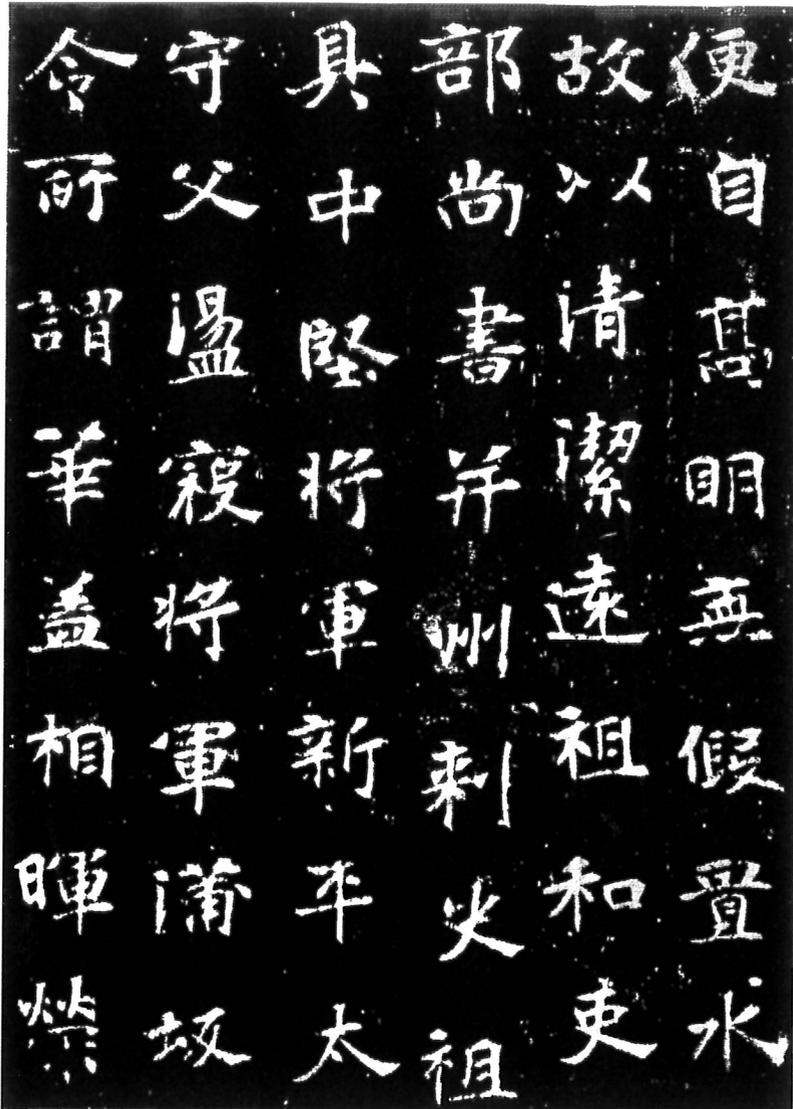
9月20日締切

がっこう	楽	つ	紙	せ	
	し	く	し	な	絵
二	い	っ	ば	が	に
ねん	で	た	い	ら	
だ	す	り	を		か
きゆう	ね			読	い
なまえ		し	考	ん	て
		て	え	だ	
		も	て	り	見

がっこう				
ほねん	あ	ご	い	お
だきゅうなまえ	り	ち	た	は
	が	そ	だ	よ
	と	う	き	う
	う	さ	ま	
		ま	す	

張玄墓誌銘

北魏・隋



便自高明。無假置水。故以清潔。遠祖和。吏部尚書并州刺史。祖具。中堅將軍新平太守。父。盪寇將軍蒲坂令。所謂華蓋相暉。榮。

すなわ みずか ち すい か 便ち自ら高明なり。置水に仮すること無し、故に以て清潔なり。遠祖の和は、吏部尚書・并州刺史。祖の具は、中堅將軍・新平太守。父は、盪寇將軍・蒲坂令なり。いわゆる 華蓋 相い 暉き、

竹覆経

竹覆経

竹覆経

竹覆経

冬雪

冬雪

冬雪

冬雪

(一・二段目) 出間桂堂 選評
恵花君 緊張感なく平常心で書かれています。

桂山君 力も筆運びが丁寧です。

邦心君 力まず素朴さがよい。

花梢君 いつも伸びやかな線で動きが大きい。

仁子君 全体に整った作、流れはよい。

政徳君 気力は感じる。少し肩の力を抜いて。

(二・三段目) 大黒仙雲 選評
美賀君 深い線で五字統一されて、明るく佳作である。

忠臣君 力も筆運びが丁寧です。

司郎君 線深く力あり。やや行意あるをおしむ。雅号品良くまとめでほしい。

宏子君 力よくまとまった線で大らかな佳作。

真理君 少しまと過ぎた所あるもきびしい作。

(三・四段目) 前田秀華 選評
竹山君 整理にして安定しています。

明美君 力まずに楽な所が佳。

キン子君 思い切った運筆。

圭子君 力よくまとめでほしい。

吉孝君 温かな線質で明るい作。

美保子君 力よくまとめでほしい。

(四段目) 塚地桂峰 選評
由紀君 力強く良くまとまっている。

啓子君 力よくまとまっている。

美里君 流れ良く大らかな作。

半九
十_{能月法}里
有里
冬_冬雪
故以清
潔遠_{能筆子}

故以清
故以清
故以清
竹_竹霞_霞徑

潔遠_{美筆}
潔遠_{美筆}
潔遠_{能筆子}
冬_冬雪

故以清
集英春
授_授稿
金_金容

潔遠_{能筆子}
殿_殿鳴_鳴梢_梢
之_之形_形
掩_掩色_色

故以清
也_也羣_羣賢_賢
故以清
不_不鏡_鏡

潔遠_{能筆子}
畢_畢至_至少_少
潔遠_{能筆子}
三_三千_千

然_然以_以志_志
集_集會_會一_一
故以清
草_草木_木

極_極難_難
處_處高_高
潔遠_{能筆子}
萌_萌動_動

(一・二段目) 福原暁雲 選評
皓月君 圓滑な筆致にて布置章法がよい。鮮明である。

美峰君 潤濁が良く利いて古典的。洋女君 端正にして、清楚な作、明るい。

智子君 いつものながら、正整几帳面に書して味わい有。

空仁君 十七帖臨、躍動感有。惠歩君 丸い線で用筆が良い、但し落款は書した筆ですぐに書くこと。

(二・三段目) 岡崎緑水 選評
美賀君 臨書に真面目にとりくんでいる。今後に期待。

紅花君 丁寧で流れもあり、佳。司郎君 達者に臨し、運筆に余裕がある。

美水君 風信帖の線を深く勉強して下さい。
道代君 伸びやかに書しているが、今後は線の研究を。

(三・四段目) 野島桂山 選評
絢子君 気勢に書け流れもよい。喜代子君 真面あり佳。

キン子君 真面目が伝わる作品。圭子君 丁寧によくまとめた作品。紀美子君 落ちついてよく書けています。

吉孝君 動きよく力強い。
(四段目) 廣末幽念 選評
知勢子君 運筆良く線も強い。

美代君 明るい作品でまともにも良い。
愛樹君 澄んだ線で作品が明るい。

弘洲 英彦 七 登富士 山士 登富士 山士 の松 音風 清へ内口 五年 五木 希実	五年 五木 希実 登富士 山士 の松 音風 五年 五木 希実	北 二年 松田 利余 樹陰 読書 登富士 山士 の松 音風 五年 五木 希実					
--	---	---	---	---	---	---	---

(一段目) 中学部
 君 流れ良くて気持ちが良い。
 日葵君 〓 ゆつたりとして良い。
 那羽君 〓 のびのびと書けている。
 莉奈君 〓 力強くて良い。
 美穂君 〓 ていねいに良くまとめている。
 (一・二・三段目) 小学六年 佐々木港花 選評
 英乃玲君 〓 富の字の田はたて線にさわるごと。
 彩詠君 〓 まじめに書いています。
 虎之介君 〓 のびやかで強さもあります。
 夕苺君 〓 ていねいに書いています。
 明璃君 〓 強さがありますがもう少し大きく。
 絵理奈君 〓 まじめに書いています。
 季也君 〓 元気によく書いています。
 真尋君 〓 もう少し元気に書けばもっとよくなります。
 彩葉君 〓 右に同じ。特に「土」という字は元気に。
 音緒君 〓 元気で。紙をよこしましたが、気をつけま
 しょう。
 (三・四段目) 小学五年 大八木洋女 選評
 陸 君 〓 堂々として良くまとめています。
 さとみ君 〓 しつかり書けています。
 陽菜穂君 〓 清々しい風を感じます。
 雄星君 〓 ていねいに書いていますね。
 はな君 〓 一字くしつかり書いています。
 ここな君 〓 半紙へのおさまりが良いですね。
 響 君 〓 気持ちまで持ち続けて下さい。
 心結君 〓 明るく書けています。
 (四段目) 小学四年 松崎緑花 選評
 希実君 〓 さすが七段、しつかりした作品。あとは小筆
 の先をととのえてお名前を書くともっと作
 品が輝きます。

岡林邦心 選評

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

海 広 い
花 火
せ み
う り

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年
須南 早苗 四年

(一・二段目)
葉奈君 努力の姿が見えます。作品が明るくまとまっています。
真音君 胸張って書けています。「海」が少し大きくなりましたが、この調子で練習。
天海君 素直な作品。おだやかな気持ちになれます。
枇菜莉君 始筆の練習をしましょう。そうすればもっと強い線になります。
有佳子君 いいね、筆がよく立っています。折れがうまくいくと、ぐんと良くなります。
璃子君 強い線です。これからの作品を楽しみにしています。
大翔君 伸びやか。この気持ちで、練習、練習。
(二・三段目) 小学三年 岡本志峰 選評
せいま君 しまりがあって力強い。
せいば君 力のある線で元気にかけています。
乙羽君 うち立がせいかくです。
紗菜君 のびのびとかけています。
あいら君 じずかにかけていねいにかけています。
維那君 うち立もよくさいごまで、ていねいにかけています。
(三・四段目) 小学二年 岡本空仁 選評
陽菜君 のびのびと良く書けています。
そう君 たちがよく書けています。
輝翔君 大きくていねいに書けています。
りいは君 よくとのつて書けています。
一翔君 じょうずに書けていますが、少し線が細いですね。
みゆ君 ちからづよくしつかり書けています。
(四段目) 小学一年・ようち。ほいく 深瀬緑堂 選評
りサ君 じめじめによくかけています。
ももか君 力がよく、どうどうとかけています。
てんが君 ゆつたりかけて力よくがんばりました。
かづき君 じつかりかけていました。がんばってください。
みさき君 げんきいっぱい。なまもていねいです。

多ノ郷 橋田 夕母
多ノ郷 大城 三佳

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
多ノ郷 大城 三佳

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
多ノ郷 大城 三佳

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
多ノ郷 大城 三佳

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
多ノ郷 大城 三佳

浦ノ内 矢野結理奈
江ノ口 北村 直亮

一ツ橋 徳平宗一郎
秦 玉城 陸

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
浦ノ内 矢野結理奈

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
浦ノ内 矢野結理奈

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
浦ノ内 矢野結理奈

カヤックは、鏡のような水面をしばらくすべり、ミルク色の世界の中で、やがて動かなくなりました。きりの切れ間から、辺りを取り巻く山や森が、ぼんやり見えています。
浦ノ内 矢野結理奈

清新 濱田ななみ
浦ノ内 美島 望花

夜須 西村 柚季
一ツ橋 安江 はな

法隆寺が建てられたのは約千四百年前、薬師寺にある三重の塔、東塔は、約千三百年前、古代の職人たちは千年たってもびくともしない建物をつくりあげたのだ。
夜須 西村 柚季

法隆寺が建てられたのは約千四百年前、薬師寺にある三重の塔、東塔は、約千三百年前、古代の職人たちは千年たってもびくともしない建物をつくりあげたのだ。
夜須 西村 柚季

法隆寺が建てられたのは約千四百年前、薬師寺にある三重の塔、東塔は、約千三百年前、古代の職人たちは千年たってもびくともしない建物をつくりあげたのだ。
夜須 西村 柚季

法隆寺が建てられたのは約千四百年前、薬師寺にある三重の塔、東塔は、約千三百年前、古代の職人たちは千年たってもびくともしない建物をつくりあげたのだ。
夜須 西村 柚季

多ノ郷 橋田 茉奈
須南 前田 真音

須崎 谷 愛莉
久礼 薦田 もこ

自分なりの工夫も発見も、そこから始まります。そうして、成功や失敗をくり返し、あなたにしかできない方法が、きつと見つかるはずですよ。
須崎 谷 愛莉

自分なりの工夫も発見も、そこから始まります。そうして、成功や失敗をくり返し、あなたにしかできない方法が、きつと見つかるはずですよ。
須崎 谷 愛莉

自分なりの工夫も発見も、そこから始まります。そうして、成功や失敗をくり返し、あなたにしかできない方法が、きつと見つかるはずですよ。
須崎 谷 愛莉

自分なりの工夫も発見も、そこから始まります。そうして、成功や失敗をくり返し、あなたにしかできない方法が、きつと見つかるはずですよ。
須崎 谷 愛莉

一ツ橋 岡村朋乃佳
一ツ橋 日浦 靖仁

江ノ口 宮崎あいら
戸波 塩見 維那

コマダラチョウのよう
虫は、エノキの葉を食べ
て育ちます。エノキの葉
が黄色くなるにつれて、
虫の体の色も、黄色にか
わっていきます。
戸波 三三〇 宮崎あいら

コマダラチョウのよう
虫は、エノキの葉を食べ
て育ちます。エノキの葉
が黄色くなるにつれて、
虫の体の色も、黄色にか
わっていきます。
戸波 三三〇 塩見 維那

コマダラチョウのよう
虫は、エノキの葉を食べ
て育ちます。エノキの葉
が黄色くなるにつれて、
虫の体の色も、黄色にか
わっていきます。
長岡 三二〇 小笠原雛子

コマダラチョウのよう
虫は、エノキの葉を食べ
て育ちます。エノキの葉
が黄色くなるにつれて、
虫の体の色も、黄色にか
わっていきます。
長岡 三二〇 田北 杏

長岡 小笠原雛子
一ツ橋 田北 杏

新莊 なべしま 綜
浦ノ内 宮地 らいと

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
新莊 二二〇 なべしま 綜

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
浦ノ内 二二〇 宮地 らいと

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
みか月 二二〇 川ぶち ゆい

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
みか月 二二〇 田北 杏

みか月 川ぶち ゆい
うらノ内 ふじ田 ゆあ

うらノ内 矢野 そうま
はだ たまきはるね

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
うらノ内 二二〇 矢野 そうま

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
はだ 二二〇 たまきはるね

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
おおのこ 二二〇 まつうら ゆいな

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
おおのこ 二二〇 矢野 そうま

おおのこ まつうら ゆいな
ふそく えがしらさくら

すなん まえだくおん
すさき こだま なの

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
すなん 二二〇 まえだくおん

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
すさき 二二〇 こだま なの

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
ながおか 二二〇 森田 みさき

「たんぼぼは、花と
じくを、しずかに休
ませて、たねに、た
くさんの えいようた
を おくっ ています。
ながおか 二二〇 森田 みさき

ながおか 森田 みさき
やす にしむらあさひ

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切って下さい。
★臨書は出典名を記入のこと。

<p>仁淀川 ○川崎由希 ★六級</p> <p>大野見 下元長年</p> <p>★五級</p> <p>高知 吉本美智子</p> <p>★四級</p> <p>南国 ○嶋崎青苑</p> <p>★三級</p> <p>大野見 ○高橋雄造</p>	<p>★一級</p> <p>審査 塚地 桂峰</p>	<p>高知 岡田由紀 中公 村田啓子 中公 林 隆光 中公 井上知勢子 須崎 鍋島千歩 中公 山崎幸三 久礼 山中英男 中公 横川美代 仁淀川 品原律子 香北 杉本美代 南国 杉内史恵</p>	<p>★七級</p> <p>高知 ○芝 美里 越知 ○大野恵美</p> <p>★新規</p> <p>六級編入 南国 池川千晶 七級編入 須崎 新田愛樹 須崎 植田愛葉</p>	<p>★師範</p> <p>審査 福原 暁雲</p> <p>奥堂皓月 中平美峰 大八木洋女 野中恵花 江西澄翠 岡林邦心 西山極山 弘田賀峰 深瀬緑堂 市原處艸 水田紅子 岩河里華 大原桂園 大庭桂紅 野島桂山</p>	<p>河村容舟 塚地桂峰 石川美水 原 桂春</p> <p>★準師範</p> <p>桑原智子 岡本空仁 山本恵歩 森光望春 天野喜泉 萩野羽花 佐竹江月 奥崎躍翠 氏原美泉 西内仁子 芝田春琴 窪田碧泉 門田恵子 田村和子 逸見翠雲 別役美佐 高橋桜芳 中城知抄 岡田雄山 山中紅風 山西春草 池 芳春 長町白水 今橋伯水 高橋朱鳥 吉田深美 平井桂草 西森令泉</p>	<p>審査 岡崎 緑水</p> <p>★六段</p> <p>大野美賀 山崎彰二郎 矢野忠臣 村上紅彦</p> <p>★五段</p> <p>岩谷紅花 亀井司郎 北村哲郎 和風和 濱田貴志子 丸田宏子 伊吹悠道 山口美智子</p> <p>★四段</p> <p>岡本美水 井口道代 大崎紫陽 松浦明子 辻本里仙 楠目実子 浪上理奈 小野山真喜 西村真理 藤原朱鳳</p>	<p>審査 野島 桂山</p> <p>★三段</p> <p>坂本絢子 利谷喜代子 下元玉泉 田村昭生 西森啓助 浜崎洋堂 松本世津 岩崎竹山 岩崎村 祥 山川百合 岡林 翠 川測瑞容 濱田順子 久保地初恵 滝下明美 岩崎一花</p> <p>★初段</p> <p>大原紀美子 戸田吉孝 岩本恵美 吉村久美子 藤原勝子 山本草園</p>	<p>★一級</p> <p>井上知勢子 横川美代 村上増水 井上増水 山崎幸三 鍋島千歩 品原律子 林 隆光 田内史恵</p> <p>★五級</p> <p>下元長年</p> <p>★六級</p> <p>芝 美里</p>	<p>★新規</p> <p>六級編入 新田愛樹 植田愛葉</p>
--	----------------------------	--	---	---	---	--	--	---	--

随 意

(出品票)

のり代

2年 9月 幅

氏 名

臨書は出典名

第845回毛筆成績

○印は昇級

中学部

審査 岡林 邦心

三年

★特待生

朝ヶ丘 松本 絵
学芸 深田日葵
吉野 中田花穂
介良 小松薫佳

★八段

須崎 毛利恋子

★四級

越知 ○品原里皇

二年

★特待生

北陵 萩 那羽

★七段

北陵 島村莉奈

★五段

土佐塾 味元美穂

★二段

仁淀 山本心春

一年

★特待生

南 森光美羽

★九段

南 森光亜杏
南 西山楽人

小学部

毛筆六年

審査 佐々木港花

★九段

多ノ郷弘瀬英乃玲

朝倉 大平彩詠

★八段

稲生 川口虎之介

多ノ郷 橋田夕苺

多ノ郷 浜口日花

多ノ郷 川崎萌珂

多ノ郷 野島小夏

多ノ郷 田菜那羽

多ノ郷 江西柚乃

夜須 國光明璃

夜須 児玉 葵

★六段

浦ノ内矢野絵理奈
岡豊 岡上桜良

★九段

長岡 永尾真尋

小高坂 笠原彩葉

★三段

甲浦 川田音緒

吾桑 前田理功

★初段

潮見台 松井柑奈

南 森光遥翔

審査 大八木洋女

★七段

秦 玉城 陸

多ノ郷 黄之瀬風

★六段

新莊 鍋島祐里花
潮見台 小松論実
夜須 白石 葵

江ノ口 北村直亮

久重 小笠原颯

多ノ郷 下元那留

甲浦 大黒真歩

佐古 田村優佳

★四段

一ツ橋川崎陽菜穂

夜須 渡邊紗己

夜須 西村柚季

大篠 楠瀬太陽

一ツ橋 安江はな

江ノ口 大西果穂

久重 小笠原恋葉

長岡 小笠原伊織

多ノ郷 ○橋田 響

★九級

越知 ○堅田心結
越知 ○若枝那瑠

多ノ郷 又川利斗

上分 梅原菜広

上分 青木美那海

須崎 湯浅柃那乃

上分 朝比奈美空

★五段

南 竹内雄星

南 西山璃人

★三段

一ツ橋 安江はな

江ノ口 大西果穂

久重 小笠原恋葉

長岡 小笠原伊織

多ノ郷 ○橋田 響

★八級

越知 ○堅田心結
越知 ○若枝那瑠

★新規

上分 植村晴陽

多ノ郷 森岡大陽

★二段

南 松坂任真

★初段

長岡 二宮有佳子

波介 福永璃子

秦 川上紗奈

長岡 内田泰平

一ツ橋 岡村朋乃佳

附屬 立石大翔

一ツ橋 岸之上和奏

★八級

一ツ橋 ○竹内花音

★十級

上分 ○くぼ田愛生

毛筆四年

審査 松崎 緑花

★七段

浦ノ内 正木希実

多ノ郷 橋田茉奈

★六段

須南 前田真音

吾桑 松浦由奈

★五段

蓮池 刈谷天海

★四段

須崎 谷 愛莉

長岡 押岡岳登

多ノ郷 川崎将汰

多ノ郷 堅田翔色

江ノ口 岡村枇菜莉

一ツ橋 田辺 楓

上分 弘田せいな

毛筆三年

審査 岡本 志峰

★五段

南 奥崎せいま

第638回硬筆成績

○印は昇級

硬筆六年

審査 森本 寿山

★特待生

多ノ郷 弘瀬英乃玲

★九段

多ノ郷 橋田夕母

多ノ郷 大城三佳

浦ノ内 宮本莉瑚

須崎 野島小夏

高知 辻岡季也

須崎 小松慎吾

上分 江西柚乃

多ノ郷 川崎萌珂

★八段

浦ノ内 矢野結理奈

稲生 川口虎之介

夜須 國光明瑞

浦ノ内 矢野絵理奈

朝倉 大平彩詠

須南 浜口日花

須崎 児玉 葵

★七段

江ノ口 北村直亮

甲浦 川田音緒

多ノ郷 下元那留

一ツ橋 岡村真歩

浦ノ内 森田 歩

多ノ郷 堅田菜那羽

★六段

久重 小笠原颯

南 森光遥翔

甲浦 大黒真歩

浦ノ内 上田梨里香

長岡 永尾真尋

上分 弘田さやか

岡豊 前田樹里

吾桑 岡上桜良

★四段

小高坂 笠原彩葉

★二段

佐古 田村優佳

★初段

一ツ橋 徳平宗一郎

★四級

浦ノ内 濱田七姫

審査 江西 澄翠

★九段

秦 玉城 陸

新莊 鍋島祐里花

★八段

清新 濱田ななみ

久礼 中平暖乃

一ツ橋 川崎陽菜穂

★七段

浦ノ内 美鳥望花

夜須 白石 葵

多ノ郷 渡邊紗己

上分 朝比奈美空

★六段

夜須 西村柚季

多ノ郷 楠浦匠海

越知 松瀬太陽

須崎 堅田心結

浦ノ内 小松諭実

舟入 谷脇鈴來

上分 森田愛咲

上分 西野心海

南 梅原菜広

一ツ橋 青木美那海

越知 若枝那瑠

江ノ口 大西果穂

浦ノ内 奥野海翔

須崎 湯浅絵那乃

多ノ郷 又川利斗

浦ノ内 森田蓮王

★四段

馬路 久保優菜

★三段

久重 小笠原恋菜

浦ノ内 西山璃人

★二段

長岡 岡本拓真

長岡 小笠原伊織

浦ノ内 藤田修宇

★初段

越知 岡田夏芽

越知 岡田実桜

馬路 大野柚寿

★一級

越知 黒石愛菜

★四級

多ノ郷 橋田 響

★新規

八級編入 松坂任真

南 八級編入

審査 市原 處艸

★七段

多ノ郷 橋田茉奈

浦ノ内 正木希実

★六段

須南 前田真音

一ツ橋 長山英美利

長岡 内田泰平

江ノ口 岡村枇茉莉

長岡 押岡岳登

★五段

須崎 谷 愛莉

蓮池 刘谷天海

一ツ橋 田辺 楓

★四段

久礼 薦田もこ

久礼 市川笑梨

上分 弘田せいな

多ノ郷 森岡大陽

吾桑 松浦由奈

★三段

秦 川上紗奈

久礼 松本さあや

一ツ橋 志磨村望

一ツ橋 岸之上和奏

久礼 田所萌瑠

附属 立石大翔

多ノ郷 植村晴陽

★二段

一ツ橋 岡村朋乃佳

越知 和田陽真莉

久礼 田口えま

多ノ郷 武内たそ

堅田翔色

★初段

長岡 二宮有佳子

波介 福永璃子

越知 片岡える

★一級

一ツ橋 森田明日香

★三級

久礼 松本りおん

★四級

浦ノ内 中井小鈴

浦ノ内 田元つくし

★五級

一ツ橋 竹内花音

★六級

一ツ橋 〇片岡さと

★十級

上分 〇くぼ田愛生

低学年の生徒名も5字迄に。出来るだけ漢字を使用して下さい。

(出品票)

のり代	2年9月筆	校名	学年	氏名	段級	のり代	2年9月筆	校名	氏名	段級
				浦ノ内 濱田龍暉					浦ノ内 濱田龍暉	
				南ノ内 奥崎せいま					南ノ内 奥崎せいま	
				久礼 岡本愛生					久礼 岡本愛生	
				岡豊 岡上真里					岡豊 岡上真里	
				戸波 岡田彩希					戸波 岡田彩希	
				長岡 安井ふき					長岡 安井ふき	
				佐古 田村依千華					佐古 田村依千華	
				長岡小笠原ひなこ					長岡小笠原ひなこ	
				★二級					★二級	
				須崎久保田湧乃介					須崎久保田湧乃介	
				久礼 林まりの					久礼 林まりの	
				附属 藤田理功					附属 藤田理功	
				須崎 谷口彩心					須崎 谷口彩心	
				浦ノ内 森田沙和良					浦ノ内 森田沙和良	
				長岡 池田毬乃					長岡 池田毬乃	
				浦ノ内 藤田柚葉					浦ノ内 藤田柚葉	
				浦ノ内 宮本心太					浦ノ内 宮本心太	
				浦ノ内 美島乙世花					浦ノ内 美島乙世花	
				戸波 塩見維那					戸波 塩見維那	
				★三級					★三級	
				久礼 中平千友					久礼 中平千友	
				岡豊 飯田ひかり					岡豊 飯田ひかり	
				江ノ口 宮崎あいら					江ノ口 宮崎あいら	
				一ツ橋 日浦靖仁					一ツ橋 日浦靖仁	
				★四級					★四級	
				須崎 小川瑛多					須崎 小川瑛多	
				越知 藤野いしん					越知 藤野いしん	
				江ノ口 西森はる希					江ノ口 西森はる希	
				越知 米澤ちな					越知 米澤ちな	
				甲浦 川田せいば					甲浦 川田せいば	
				一ツ橋 北北杏					一ツ橋 北北杏	
				★初級					★初級	
				長岡 野島ひまり					長岡 野島ひまり	
				浦ノ内 藤田千春					浦ノ内 藤田千春	
				長岡 森田千春					長岡 森田千春	
				浦ノ内 池田毬乃					浦ノ内 池田毬乃	
				★三級					★三級	
				浦ノ内 藤田ゆうせい					浦ノ内 藤田ゆうせい	
				越知 徳平温郎					越知 徳平温郎	
				一ツ橋 永尾庵					一ツ橋 永尾庵	
				長岡 公文琉心					長岡 公文琉心	
				★五級					★五級	
				浦ノ内 藤田ゆあ					浦ノ内 藤田ゆあ	
				浦ノ内 藤原一乃					浦ノ内 藤原一乃	
				一ツ橋 氏原うま					一ツ橋 氏原うま	
				長岡 押岡風佳					長岡 押岡風佳	
				★一級					★一級	
				須南 宮本りいは					須南 宮本りいは	
				一ツ橋 宮田菜尋					一ツ橋 宮田菜尋	
				久礼 濱田かなで					久礼 濱田かなで	
				長岡 高芝仁貴					長岡 高芝仁貴	
				★六級					★六級	
				浦ノ内 藤田ゆうあ					浦ノ内 藤田ゆうあ	
				浦ノ内 藤田ゆうあ					浦ノ内 藤田ゆうあ	
				★初級					★初級	
				浦ノ内 宮地輝翔					浦ノ内 宮地輝翔	
				初月 川淵結衣					初月 川淵結衣	
				須崎 山崎ひなこ					須崎 山崎ひなこ	
				★二級					★二級	
				藤沢 渡部一翔					藤沢 渡部一翔	
				新莊 鍋島そう					新莊 鍋島そう	
				★三級					★三級	
				多ノ郷 森光陽菜					多ノ郷 森光陽菜	
				★四級					★四級	
				石川 美水					石川 美水	
				★四級					★四級	
				石川 美水					石川 美水	
				★二級					★二級	
				須崎 竹村そうすけ					須崎 竹村そうすけ	
				久礼 田口きこ					久礼 田口きこ	
				★三級					★三級	
				一ツ橋 中澤愛加					一ツ橋 中澤愛加	
				上分 ○あさひならむ					上分 ○あさひならむ	
				多ノ郷					多ノ郷	
				○森岡かいせい					○森岡かいせい	
				須崎					須崎	
				○毛利しゅう門					○毛利しゅう門	
				南					南	
				○西山あい					○西山あい	
				久礼					久礼	
				○林しげたろう					○林しげたろう	
				★四級					★四級	
				上分 ○弘田みゆ					上分 ○弘田みゆ	
				藤沢 ○駒崎まなえ					藤沢 ○駒崎まなえ	
				久礼 大野まひろ					久礼 大野まひろ	
				★五級					★五級	
				一ツ橋 片岡あい					一ツ橋 片岡あい	
				★六級					★六級	
				稲生 ○中澤せいあ					稲生 ○中澤せいあ	
				長岡 池島基陽					長岡 池島基陽	
				★七級					★七級	
				馬路 ○浅野由梨					馬路 ○浅野由梨	
				★九級					★九級	
				長岡 ○二宮嘉奈子					長岡 ○二宮嘉奈子	
				浦ノ内 ○藤田かえで					浦ノ内 ○藤田かえで	
				★十級					★十級	
				浦ノ内 ○松山しょう					浦ノ内 ○松山しょう	
				久礼 ○松本かなな					久礼 ○松本かなな	
				長岡 ○宮脇あらた					長岡 ○宮脇あらた	
				久礼 ○窪田まゆ					久礼 ○窪田まゆ	
				岡豊 ○しまむらさく					岡豊 ○しまむらさく	
				一ツ橋 ○玉置はる					一ツ橋 ○玉置はる	
				久礼 ○木下みゆ					久礼 ○木下みゆ	
				久礼 ○竹本ひろと					久礼 ○竹本ひろと	
				★五級					★五級	
				須南 ○前田くおん					須南 ○前田くおん	
				上分 ○小松のぞみ					上分 ○小松のぞみ	
				多ノ郷 橋田てんが					多ノ郷 橋田てんが	
				★新規					★新規	
				十級編入					十級編入	
				多ノ郷 堅田愛唯					多ノ郷 堅田愛唯	
				★九級					★九級	
				夜須 ○西村あさひ					夜須 ○西村あさひ	
				須崎 ○川西こうすけ					須崎 ○川西こうすけ	
				★十級					★十級	
				佐古 ○たむらけんこ					佐古 ○たむらけんこ	
				★二級					★二級	
				長岡 ○森田みさき					長岡 ○森田みさき	
				★九級					★九級	
				須崎					須崎	
				★二級					★二級	
				審査 中平 美峰					審査 中平 美峰	
				★二級					★二級	
				こうひつ					こうひつ	
				ようち・ほいく					ようち・ほいく	
				★二級					★二級	
				審査 中平 美峰					審査 中平 美峰	
				★二級					★二級	
				長岡 ○森田みさき					長岡 ○森田みさき	
				★九級					★九級	
				夜須 ○西村あさひ					夜須 ○西村あさひ	
				須崎 ○川西こうすけ					須崎 ○川西こうすけ	
				★十級					★十級	
				佐古 ○たむらけんこ					佐古 ○たむらけんこ	

二〇二〇年十一月号からの規定課題

春望

杜甫

國破山河在

國破れて山河在り

城春草木深

城春にして草木深し

感時花濺淚

時に感じては花にも涙を濺ぎ

恨別鳥驚心

別れを恨んでは鳥にも心も驚かす

烽火連三月

烽火 三月に連なり

家書抵萬金

家書 万金に抵る

白頭搔更短

白頭 搔けば更に短く

渾欲不勝簪

渾べて 簪に勝えざらんと欲す

【認定証について】

昇段、昇級された方で認定証が入用の方は、左記によりお申し込み下さい。

記

★師 範 三千元

★準師範以下一般 二千元

★学 生 一千元

(注意 申込時左記事項を必ずお知らせ下さい。)

① 昇段の年月日

② 学生は学校名と学年

③ 一般は市町村名

(申込先)ご希望の先生に要項を明記した文書で
直接お申し込み下さい。

〒七八一―七四二一

安芸郡東洋町河内三〇四

龍跳書道会 福原暁雲

〒七八一―三〇一

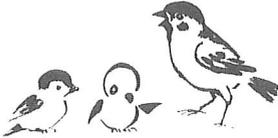
高岡郡越知町越知甲二二―一七一―一六

龍跳書道会 梅川桂龍

お知らせ

※県展作品下見会

8月23日(日) 審査会終了後(12時半)
下見会を行います。
(参加料500円)



秋季昇段試験作品募集

▽第一部 (準師範) 一般部段位、級位の者

○課題

風林落葉秋聲動 露草鳴蛩夜氣涼

風林ふうりんの落葉らくよう秋聲しゅうせい動うごき 露草ろうそうの鳴蛩めいしゅう夜氣やき涼すずし

○右の詩句を画仙紙半折に楷、行草体の二枚と60ページの張玄墓誌銘より、十二文字以上を臨書して計三点出品のこと。

○作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで現段級位と氏名を明記すること。

○当選者は準師範以下相当段位に認定編入する。

▽第二部 一般部級位の者

○課題

木葉動秋聲

木葉もくよう秋聲しゅうせいを動うごかす

○右を楷、行、草の三体を半紙三枚出品のこと。

○作品を楷、行、草の順に縦に貼つぎすること。

○作品は無落款とし、作品裏面左下にエンピツで現級位と氏名を明記すること。

○当選者は初段以下相当段級位に認定編入する。

☆出品料 第一部・六千円／第二部・四千円

(作品と同時に納入してください)

第一、二部参考手本を希望される人は本会役員に直接申込んで下さい。潤筆料は条幅三点につき一万五千円、半紙三点につき五千円。

▽学生・学童の部 (毛筆部)

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○規格は半紙。一人一点とします。

○書体は自由です。

○作品の裏にエンピツで学年、現段級位、氏名を書くこと。

○作品の表には絶対に書いてはいけません。

○出品料 五百円

▽硬筆作品

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○それぞれの学年に応じた硬筆用紙に規定の字句、学校名、学年、

現段級位、氏名を正しく書いて出品してください。

○出品料 五百円

△作品の締切 令和二年九月三日(木) 必着のこと。

△審査日時 令和二年九月六日(日)

午前九時から審査準備、十時より審査開始

△審査場所 高知城ホール

△受験作品送付先 〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山 宛

電話 (088) 865-18857

注

封筒表に「昇試作品在中」と明記する事

春・秋・季 昇段(級)試験申し込み内訳表

申込者氏名 _____

	出 品 料	点 数	金 額	払い込み方法 (いずれかを○で囲む)
師範の部 (春季のみ)	8000円	点	円	現金・為替・振込み
第一 部	6000円	点	円	現金・為替・振込み
第二 部	4000円	点	円	現金・為替・振込み
学生・学童の部	出 品 料	点 数	金 額	払い込み方法 (いずれかを○で囲む)
毛 筆	500円	点	円	現金・為替・振込み
硬 筆	500円	点	円	現金・為替・振込み
合計金額			円	

※昇試作品に上記内訳表を必ず添付して下さい。 ※グループで送られる方は合計点数で記入して下さい。

※師範の部は4体、第1部・第2部は3体を「1点」として下さい。

連絡・問い合わせ・送り先等

- ・新規入会申込と会費の送金先
- ・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三二一

隅田巨心

龍跳書道会

徳島県鳴門郡

0169003-31925

電話(〇八八九)三五〇九七一番

- ・月例作品の送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山

電話(〇八八)八六五―八八五七番

- ・「龍跳誌」の内容について

〒781-6410 安芸郡田野町一四五六―二九

廣末幽念

電話(〇八八七)三八―五二〇八番

- ・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六―八

江西澄翠

電話(〇八八九)四二―三〇六七番

- ・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話(〇八八九)四七―〇七二二番

あとがき

〇永い間、本会にご尽力下さいました北代先生が去る五月、お亡くなりになりました。私は新聞を見て知りましたが、あまりにも突然のことで話す言葉もない思いでした。

先生は数年前、大きな手術をされましたが、その後経過が良く(その様に思っていました)月例診査には殆ど出席されて熱心に指導されていました。

〇7月10日梅川氏と、北代先生宅へお参りに行つてまいりました。(福原暁雲氏は豪雨で断念)

そして僭越ですが、龍跳の皆さんの思いも含める思いでご焼香させて頂きました。

その後奥様からくわしくお話を伺いました。

〇5月18日告別式、葬儀を近親者で済ませたこと。コロナウイルスの関係で病院も事務的で、家族との面会もできなかったこと、隣近所にも知らさなかったことなど、大変な思いで過ごされた経過をお聞きました。

奥様は心身ともに少し落ちつかれた様子でしたのですっかり安心して帰ってまいりました。

先生、どうか安らかに……。

月例競書課題

保 育	一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	小学 六年	一 年	二 年	中 学 三 年	半 紙 随 意	半 紙 規 定	一 般 条 幅	部 別
	そ ば い え	む し は る	夕 日 元 気	秋 の 山 手 あ ら い	足 音 高 し 近 づ く 春	体 育 大 会 命 と 人 権	科 学 技 術 生 活 様 式	言 語 表 現 家 庭 学 習	健 康 対 策	任 意	寥 寥 人 境 外 閒 坐 聽 春 禽	任 意	縮 切 日 九 月 二 十 日 縮 切 十 月 二 十 日 縮 切

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 : 半年分 3,000円 / 1年分 6,000円

1ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は干料不要)

11冊以上は次の計算による。(1ヶ月分)

Ⓐ	1冊～3冊	80円
Ⓑ	4冊～8冊	150円
Ⓒ	9冊・10冊	210円

〈例〉 12冊 ④+Ⓐ=290円×月数
 17冊 ④+Ⓑ=360円×"
 30冊 ④×3=630円×"

◎会費と龍跳誌干料は原則として半年分または1年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ

- ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
- ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会

(お問い合せ) ☎0889-35-0971

○月号(○冊)より○月号まで○ヶ月分
 誌代 ○円 / 干料 ○円

と記入のこと。

印刷所	発行所	発行人	編集室
(有)笹岡印刷所	龍跳書道会	廣末幽念(本部)	廣末幽念
須崎市東古市町二一六	電話(〇八八七) 三八一五二〇八	安芸郡田野町一四五六一二九	野島桂山
電話(〇八八九) 四二一〇二四四		電話(〇八八七) 三八一五二〇八	江西澄翠
			中平美峰

月例作品送り先
 〒783-0081 南門市片山四九〇
 西山極山宛
 電話(088) 86518857